

令和 6 年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立三次小学校	校長	出口 康子	生徒指導主事	沖村 祐樹
取組事例名	『児童主体の児童会活動』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
○教職員主導から児童主導の児童会活動の取組を実施するため。 ○自分たちで決めたことを、自分たちの力でやりぬく力を付けるため。 ○目標達成のために自らの役割を理解し、他者と協力できる力を付けるため。	〈本校のめざす子ども像〉 「進んで学ぶ児童／仲良く伸び合う児童／元気でやりぬく児童」 ↓ ※本取組において重点的に育てたい児童像 「仲良く伸び合う児童」 「元気にやりぬく児童」

2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
※児童会目標達成に向けて、児童会執行部が掲げた公約に基づいて取組を実施。 ○「意見箱」の設置 (ねらい) 校内に意見箱を置き、児童から出た意見を児童会活動に取り入れるため。  〈実際に出た意見〉 ・全校でイベントをしてほしい。 ・休憩時間にグラウンドや教室で使う遊び道具を増やしてほしい。 ・持って来ることのできるラインマーカーの数を増やしてほしい。(色分けをして使うため) など ○全校児童によるレクリエーションの実施 (ねらい) 全校児童が協力して楽しみ、仲が深まるようにするため。  	児童にめあてをもたせるために ○児童会目標を達成するための取組になっているかどうか、常に立ち返らせる。 ○児童会担当の教職員が「何のためにその取組をやるのか」を問いかけ、取組の目的を明確にさせる。 児童の意欲を高めるために ○児童から出た意見を尊重し、チャレンジすることを促す声掛けをする。 (例) 「失敗しても大丈夫だから、まずはやってみよう！」 ○児童主体で考えたことを実現させ、達成感を味わわせる。 児童の頑張りを認め、価値付けるために ○一つ一つの取組を実践した後で、必ず振り返りの場を設け、児童会担当の教職員から評価の声掛けを行う。 ○児童間でも評価し合う。

3 成果と課題

○児童会担当の教職員が、目的を明確にさせる声掛けを徹底したことで、児童が考えたねらいからずれることなく取組を実践することができた。 ●教職員主導になる場面がまだ見られるため、児童主体で取組を進められるよう、児童に見通しをもたせて児童会活動を運営する必要がある。
--